

県民モニター「第2回アンケート調査」結果概要

1 調査概要

- (1) 調査テーマ：「都市と農山漁村との新たな共生」
- (2) 調査対象者：県民モニター514人
(8月17日までの登録者)
- (3) 調査期間：平成18年8月18日(金)～8月29日(火)[12日間]
- (4) 調査方法：県ホームページ上のアンケートフォームに入力
- (5) 回答者数：326人(回答率63.4%)
- (6) 自由記入欄：8箇所設定(回答者の98.8%がいずれかに記載)

参考 - 対象者及び回答者属性

	対象者	回答者	回答率
総数	514	326	63.4%
(性別)			
男性	303	214	70.6%
女性	211	112	53.1%

2 調査結果の概観

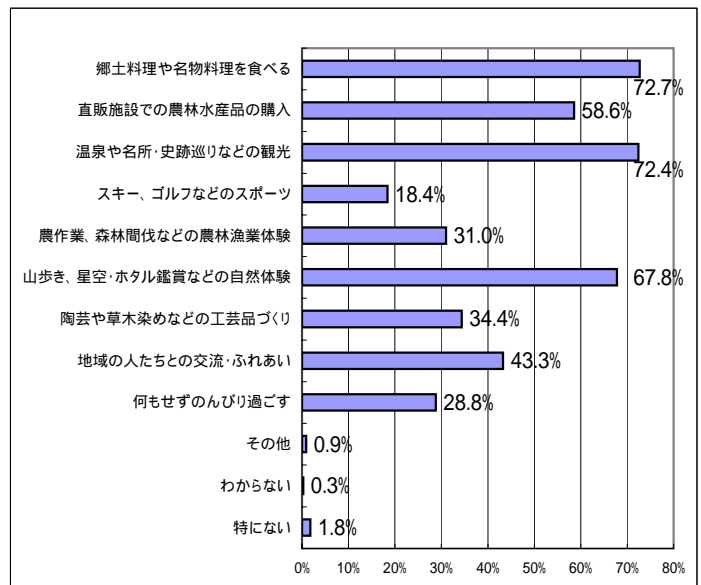
- ・農山漁村地域でしてみたいことでは、郷土料理などの食事、温泉などの観光との回答がどちらも回答者の7割を超え、山歩きなどの自然体験が約7割となっている。また、同地域に関する情報源は、本制度の性格上、「インターネット」が6割超と最も多いが、「テレビ・ラジオ」が5割台半ばを超え、「新聞」「旅行雑誌等」「ポスター等」もそれぞれ4割を超えており、多様な媒体から情報を得ていることがうかがえる。
- ・平日は都市部で、週末は農山漁村地域で生活するライフスタイルに、6割超が『関心がある』(「既実践している」「少し関心がある」を含む)と回答しているが、実践するために何が重要かについては、「金銭的余裕」が6割超、「時間的余裕」が5割台半ば、「アクセスの良さ」や「安い家屋や土地」が4割台半ばなど、実践に向けて様々なハードルがあることがうかがえる。
- ・「多自然居住」の取組は、6割超が「聞いたことがなかった」、3割超が「内容までは知らなかった」と回答しており、「もっと広報紙等でアピールする」ことが必要との意見が多数を占めている。
- ・アンケート結果は、「多自然居住」を推進するため、今後の具体的な施策・事業を検討する中で参考とする。

3 調査結果

都市と農山漁村との交流

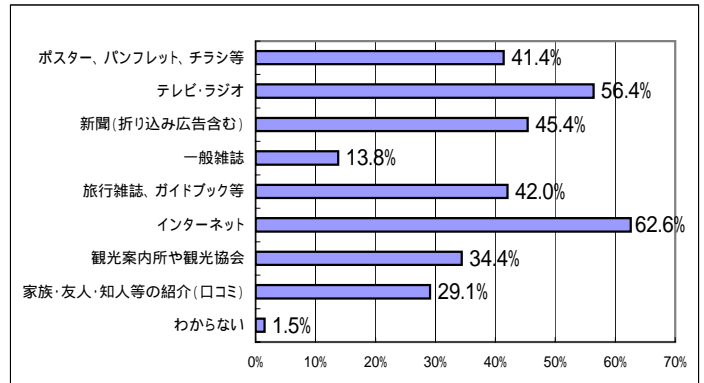
Q1 農山漁村地域で何をしてみたいか
(いくつでも選択)

- (1) 郷土料理や名物料理を食べる 72.7%
- (2) 直販施設での農林水産品の購入 58.6%
- (3) 温泉や名所・史跡巡りなどの観光 72.4%
- (4) スキー、ゴルフなどのスポーツ 18.4%
- (5) 農作業、森林間伐などの農林漁業体験 31.0%
- (6) 山歩き、星空・ホテル鑑賞などの自然体験 67.8%
- (7) 陶芸や草木染めなどの工芸品づくり 34.4%
- (8) 地域の人たちとの交流・ふれあい 43.3%
- (9) 何もせずのんびり過ごす 28.8%
- (10) その他 0.9%
- (11) わからない 0.3%
- (12) 特にない 1.8%



Q 2 農山漁村地域の情報を何から得ることが多いか(いくつでも選択)

(1) ポスター、パンフレット、チラシ等	41.4%
(2) テレビ・ラジオ	56.4%
(3) 新聞(折り込み広告含む)	45.4%
(4) 一般雑誌	13.8%
(5) 旅行雑誌、ガイドブック等	42.0%
(6) インターネット	62.6%
(7) 観光案内所や観光協会	34.4%
(8) 家族・友人・知人等の紹介(口コミ)	29.1%
(9) わからない	1.5%



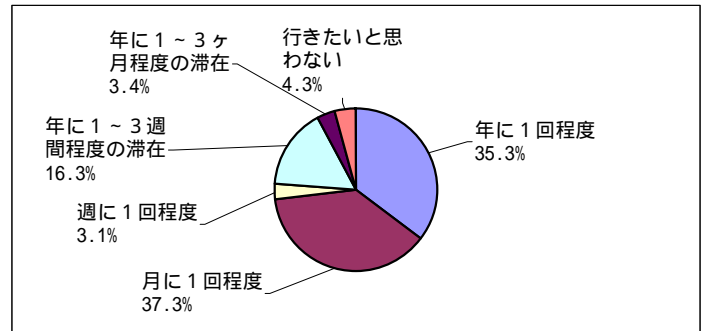
Q 3 Q 2 以外で情報を入手する媒体(自由記入)

- 1 回答者の12.0%にあたる39人が記載
- 2 主な記載内容は以下のとおり
 - ・ 県市町の広報紙(誌)やメール
 - ・ 同好会や団体、友人など
 - ・ 現地の道の駅や特産品売り場など

12件
5件
5件

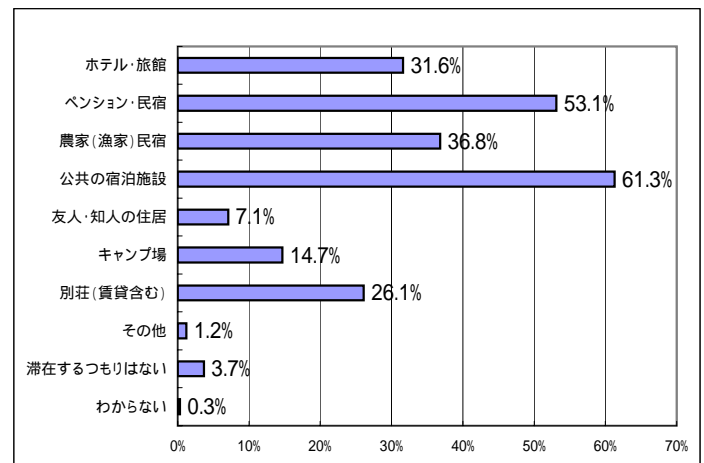
Q 4 農山漁村地域に行ってみたい頻度や期間はどの程度か(1つ選択)

(1) 年に1回程度	35.3%
(2) 月に1回程度	37.7%
(3) 週に1回程度	3.1%
(4) 年に1~3週間程度の滞在	16.3%
(5) 年に1~3ヶ月程度の滞在	3.4%
(6) 行きたいと思わない	4.3%



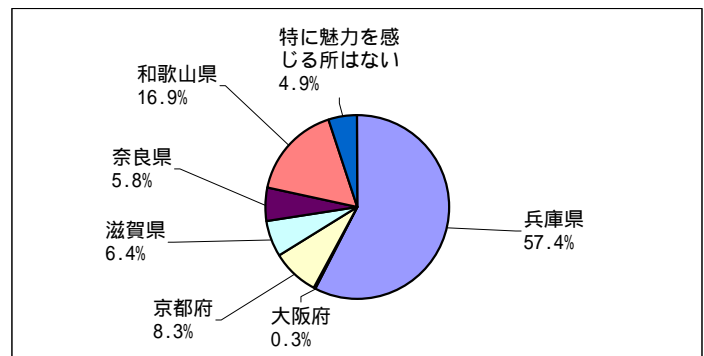
Q 5 農山漁村地域では、どのような施設に滞在してみたいか(いくつでも選択)

(1) ホテル・旅館	31.6%
(2) ペンション・民宿	53.1%
(3) 農家(漁家)民宿	36.8%
(4) 公共の宿泊施設	61.3%
(5) 友人・知人の住居	7.1%
(6) キャンプ場	14.7%
(7) 別荘(賃貸含む)	26.1%
(8) その他	1.2%
(9) 滞在するつもりはない	3.7%
(10) わからない	0.3%



Q 6 近畿圏内では、特にどの府県の農山漁村に魅力を感じるか(1つ選択)

(1) 兵庫県	57.4%
(2) 大阪府	0.3%
(3) 京都府	8.3%
(4) 滋賀県	6.4%
(5) 奈良県	5.8%
(6) 和歌山県	16.9%
(7) 特に魅力を感じる所はない	4.9%

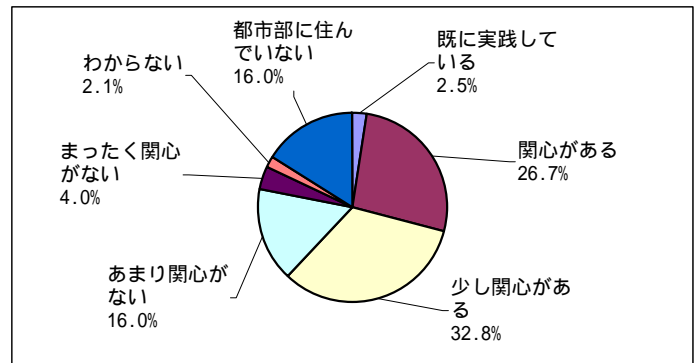


Q7 Q6でその項目を選択した理由(自由記入)

- 1 回答者の96.0%にあたる313人が記載
- 2 主な記載内容は以下のとおり
 - (兵庫県：182件)
 - ・近いから、身近だから 43件
 - ・海や山などの自然が魅力的だから 41件
 - (大阪府：1件)
 - ・現在通学しているから 1件
 - (京都府：26件)
 - ・歴史が古く、史跡や寺院等が多いから 10件
 - ・海や山などの自然が魅力的だから 7件
 - (滋賀県：17件)
 - ・琵琶湖やその周辺が魅力的だから 6件
 - ・過去に滞在した経験があるから 4件
 - (奈良県：16件)
 - ・都市化されておらず、自然が多いから 7件
 - ・歴史があり、史跡などが多いから 6件
 - (和歌山県：59件)
 - ・海や山などの自然が豊富だから 28件
 - ・海産物や梅などの食べ物が美味しいから 4件

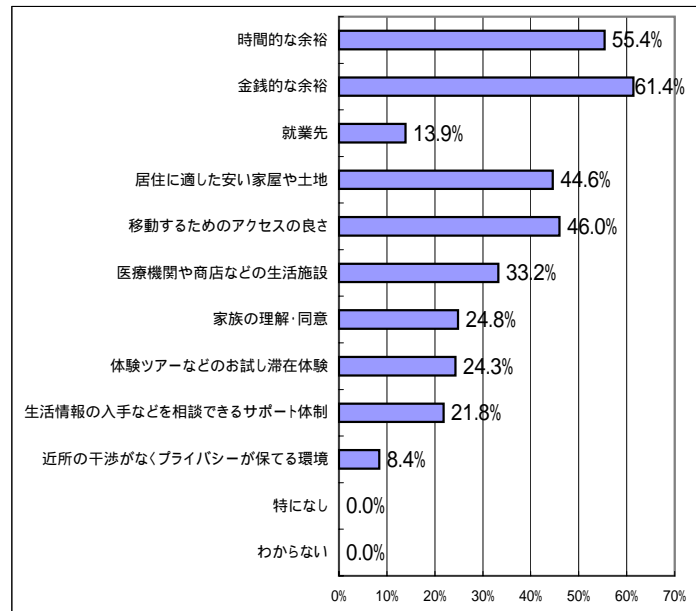
Q8 平日は都市部、週末は農山漁村地域で生活するライフスタイルに関心があるか(1つ選択)

- | | |
|----------------|-------|
| (1) 既に実践している | 2.5% |
| (2) 関心がある | 26.7% |
| (3) 少し関心がある | 32.8% |
| (4) あまり関心がない | 16.0% |
| (5) まったく関心がない | 4.0% |
| (6) わからない | 2.1% |
| (7) 都市部に住んでいない | 16.0% |



(Q8で(1)~(3)の選択者(202人)に対し)
Q9 都市と農山漁村の両方に生活するライフスタイルを実践するためには何が重要か(いくつでも選択)

- | | |
|---------------------------|-------|
| (1) 時間的な余裕 | 55.4% |
| (2) 金銭的な余裕 | 61.4% |
| (3) 就業先 | 13.9% |
| (4) 居住に適した安い家屋や土地 | 44.6% |
| (5) 移動するためのアクセスの良さ | 46.0% |
| (6) 医療機関や商店などの生活施設 | 33.2% |
| (7) 家族の理解・同意 | 24.8% |
| (8) 体験ツアーなどのお試し滞在体験 | 24.3% |
| (9) 生活情報の入手などを相談できるサポート体制 | 21.8% |
| (10) 近所の干渉がなくプライバシーが保てる環境 | 8.4% |
| (11) 特になし | 0.0% |
| (12) わからない | 0.0% |

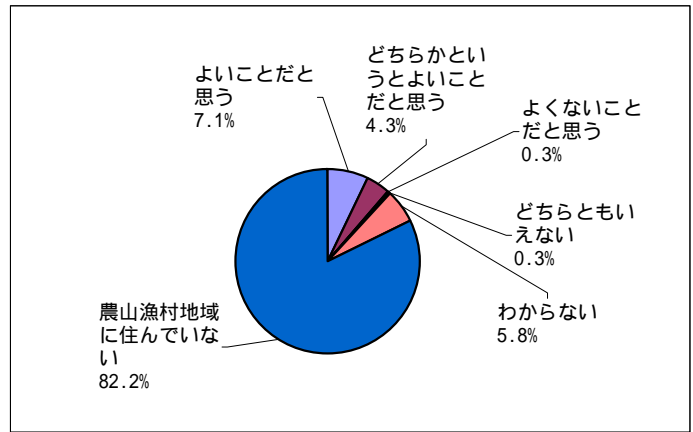


Q10 Q9以外で重要と思うこと(自由記入)

- 1 Q9回答者の21.8%にあたる44人が記載
- 2 主な記載内容は以下のとおり
 - ・受入側と都市住民との互いの意識、コミュニケーション 8件
 - ・居住できる公的施設や安価な施設 6件
 - ・田舎暮らしに必要な情報 5件
 - ・アクセス面での利便性 4件

Q11 都市住民が平日は都市部で生活し、週末は農山漁村で生活することについてどう思うか(1つ選択)

- | | |
|-----------------------|-------|
| (1) よいことだと思う | 7.1% |
| (2) どちらかというよいことだと思う | 4.3% |
| (3) どちらかというよくないことだと思う | 0.0% |
| (4) よくないことだと思う | 0.3% |
| (5) どちらともいえない | 0.3% |
| (6) わからない | 5.8% |
| (7) 農山漁村地域に住んでいない | 82.2% |



→ (Q11で(1)~(5)の選択者(39人)に対し)

Q12 Q11でその項目を選択した理由(自由記入)

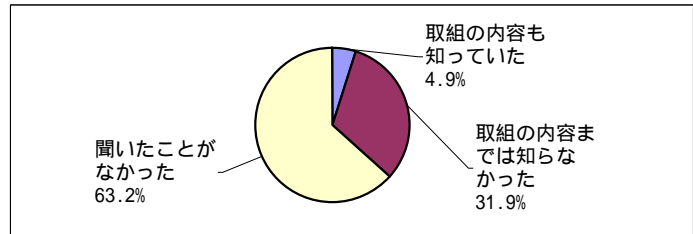
- Q11で(1)~(5)の選択者の79.5%にあたる31人が記載
- 主な記載内容は以下のとおり(5)選択者の記載は省略)

- | | |
|------------------------------|----|
| (よいことだと思う: 22件) | |
| ・ 過疎化する農山漁村地域を活性化させることができるから | 6件 |
| ・ 自然の中で生活することは体や心によいと思うから | 5件 |
| (どちらかというよいことだと思う: 10件) | |
| ・ これまでと違った経験ができるから | 3件 |
| ・ そのような生活にあこがれるから | 2件 |
| (よくないことだと思う: 1件) | |
| ・ 時間や労力がかからないから | 1件 |

「多自然居住」の推進について

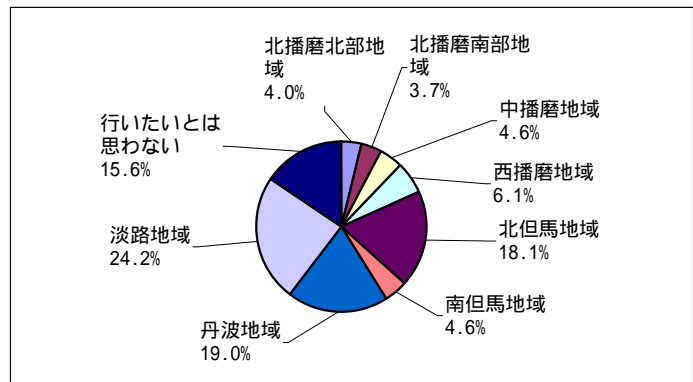
Q1 「多自然居住の推進」という取組を知っていたか(1つ選択)

- | | |
|--------------------|-------|
| (1) 取組の内容も知っていた | 4.9% |
| (2) 取組の内容までは知らなかった | 31.9% |
| (3) 聞いたことがなかった | 63.2% |



Q2 (兵庫県内の)どの地域で「多自然居住」を行いたい(1つ選択)

- | | |
|----------------|-------|
| (1) 北播磨北部地域 | 4.0% |
| (2) 北播磨南部地域 | 3.7% |
| (3) 中播磨地域 | 4.6% |
| (4) 西播磨地域 | 6.1% |
| (5) 北但馬地域 | 18.1% |
| (6) 南但馬地域 | 4.6% |
| (7) 丹波地域 | 19.0% |
| (8) 淡路地域 | 24.2% |
| (9) 行いたいとは思わない | 15.6% |



Q3 Q2でその地域を選択した理由(自由記入)

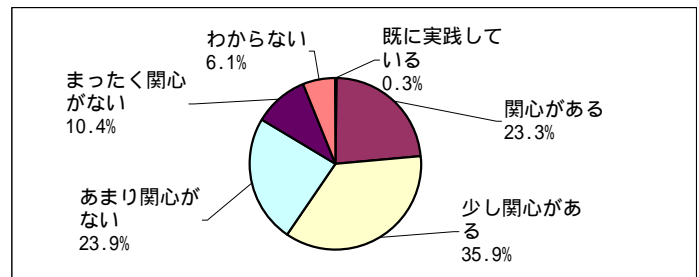
1 回答者の82.5%にあたる269人が記載

2 主な記載内容は以下のとおり

(北播磨北部地域：13件)	
・自然が魅力的だから	5件
・これまであまり親しみがなかったから	3件
(北播磨南部地域：9件)	
・現住地から近いから	3件
・都市から近くて便利だから	2件
(中播磨地域：17件)	
・現住地に近いから	7件
・自然が豊かだから	3件
(西播磨地域：22件)	
・自宅に近いから	6件
・興味深い施設・史跡があるから	4件
(北但馬地域：56件)	
・自然環境が良いから	14件
・海が近いから(海が好きだから)	11件
(南但馬地域：16件)	
・自然環境が良いから	7件
・アクセスしやすいから	5件
(丹波地域：70件)	
・アクセスしやすいから(交通の便が良いから)	15件
・自然環境が良いから	15件
(淡路地域：96件)	
・海や山などの自然が魅力的だから	30件
・気候がよいから	19件

Q4 空き家を活用した多自然居住に関心があるか(1つ選択)

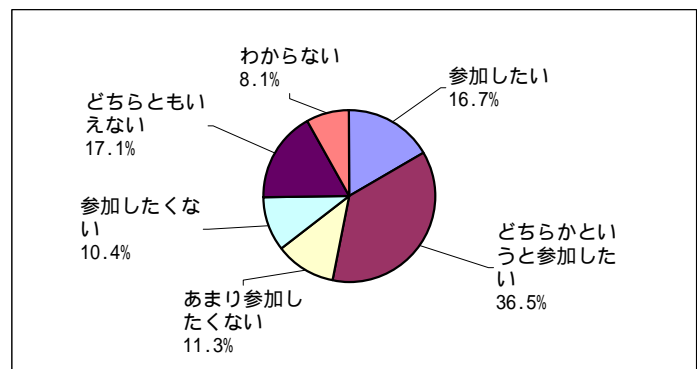
(1) 既実践している	0.3%
(2) 関心がある	23.3%
(3) 少し関心がある	35.9%
(4) あまり関心がない	23.9%
(5) まったく関心がない	10.4%
(6) わからない	6.1%



(Q4で(1)~(3)の選択者(194人)に対し)

Q5 ボランティアやNPO等が多自然地域の空き家を改修し、有効に活用している事例があるが、このような活動に参加したいか(1つ選択)

(1) 参加したい	16.7%
(2) どちらかというに参加したい	36.5%
(3) あまり参加したくない	11.3%
(4) 参加したくない	10.4%
(5) どちらともいえない	17.1%
(6) わからない	8.1%



Q6 Q5でその項目を選択した理由(自由記入)

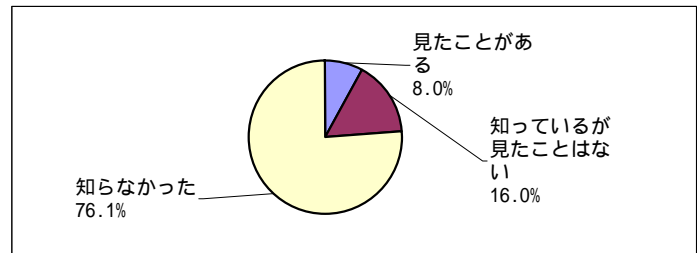
1 Q5回答者の93.3%にあたる181人が記載

2 主な記載内容は以下のとおり((5)(6)選択者の記載は省略)

(参加したい：31件)	
・これまで経験がなく、自然の中で生活する体験をしてみたいから	6件
・空き家を利用しての住環境に関心があるから	5件
(どちらかというに参加したい：77件)	
・時間や費用がかかりそうだから。日程や予算が合えば参加したい	17件
・今の生活と異なる生活をしてみたい。何事にもチャレンジする気持ちが大切	13件
(あまり参加したくない：22件)	
・今の生活を維持するだけで精一杯である	6件
・健康上の理由でできない、体力がない	4件
(参加したくない：18件)	
・時間的・金銭的に余裕がないから	4件
・よい活動と思わないから	3件

Q 7 県の多自然居住支援サイト『兵庫で田舎暮らし』を知っているか(1つ選択)

- | | |
|--------------------|-------|
| (1) 見たことがある | 8.0% |
| (2) 知っているが、見たことはない | 16.0% |
| (3) 知らなかった | 76.1% |



Q 8 このサイトでどのような情報を提供すれば、多自然居住を实践するために役立つと思うか(自由記入)

1 回答者の60.1%にあたる196人が記載

2 主な記載内容は以下のとおり

- | | |
|-----------------------------|-------|
| ・ 周辺の生活環境や農山漁村住民の意識など受入側の情報 | 5 6 件 |
| ・ 体験者の生の声や実例(よかったことや失敗談など) | 3 1 件 |
| ・ 空き家の情報 | 2 1 件 |
| ・ 改修や居住に要する費用の情報 | 1 7 件 |

Q 9 県としては、今後、より多くの方々が『多自然居住』を行うようになるためには、どのような取り組みが必要と思うか(自由記入)

1 回答者の68.4%にあたる223人が記載

2 主な記載内容は以下のとおり

- | | |
|----------------------------------|---------|
| ・ 多自然居住に関する取組をもっと広報紙等でアピールする | 1 0 8 件 |
| ・ 試行的に体験できるような行事を実施する | 3 4 件 |
| ・ 安心して暮らせるよう、商店や医療機関、学校等の住環境を整える | 3 2 件 |
| ・ 行政が補助金を出すなど、金銭面や就労面等でアドバイスを行う | 1 6 件 |